

牛ウイルス性下痢（BVD）とは

1. 原因（病原体）

牛ウイルス性下痢ウイルス

2. 感受性動物

牛、水牛

3. 症状

宿主の年齢、感染様式によって臨床症状は大きく異なる。急性感染牛では、発熱・下痢、呼吸促迫、流産・異常産など。

持続感染牛では慢性的な下痢、成長不良など典型的な臨床症状を示すことは少ない。粘膜病発症牛では血液を含む下痢、鼻・口腔のびらん（ただれること）・潰瘍（深部組織の破壊）など。急性感染牛の致死率は低く（5～10%）、回復後は終生免疫を獲得するが、粘膜病発症牛では致死率が高い（90～100%）

4. 発生状況

（1）国内（牛）

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
戸数	118	120	136	158	222	221	230	207
頭数	189	228	260	310	406	380	382	359

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
戸数	148	109	76	70	75
頭数	265	235	119	172	124

（出典：家畜衛生週報）

（2）海外

世界各地に発生あり。

5. 診断法

（1）血液等からウイルス分離を行う。

（2）抗体の検出を行う。

6. 予防法

ワクチン接種を行う。

7 治療法、対策

急性感染牛では呼吸器症状に対する対症療法。持続感染牛では有効な治療法はない